

事務事業名(細目)	朝来市少年少女オーケストラ事業	担当部課	社会教育課(和田山公民館)
予算コード	10 - 05 - 01 - 004 - 01		
款: 教育費	項: 社会教育費	目: 社会教育総務費	

1.事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	好きなまちで子育て【自然増促進】	事業開始年度	評価区分	計画
21	確かな学力と豊かな心を育む教育の推進	H 2	事業種別	1.ソフト事業
事業の目的	・活動を通して、クラシック音楽に触れる機会を提供することで、子どもたちの好奇心や夢を育み、青少年の健全育成を図る。 ・小中学生団員と高校生団員、大学生や社会人との先輩後輩間の指導体制による世代を超えた相互人材育成システムの構築を図る。 ・市外在住の元団員の市内へのUターンにより地域の活性化を図る。 ・市民にとって身近な音楽文化としてのクラシック音楽の普及振興を図る。 ・市内を中心とした但馬全域でのオーケストラ事業の展開を目指す。			
事業の実施内容等	青少年の人材育成の場として活動を行う。定期練習では先達の団員がリーダーとなって後輩の指導を行い、それを指導員(教職員)が補助するという形態をとっている。また、月に2回程度、ライツ室内管弦楽団から質の高い指導を直接受けることで、団員の演奏技術の向上を図っている。また、朝来市少年少女オーケストラは市制施行10周年記念式典において【さくら賞(朝来市まちづくり功労者)】を受賞した。 定期練習:火曜日(18:30~20:00)、土曜日(15:00~17:00) 強化練習:夏季合宿(8月1日・2日)、春季強化練習(3月26日・27日) 演奏活動 ・市制施行10周年記念式典オープニング演奏(6月28日) ・中川こども園サマーコンサート(8月4日) ・兵庫県交響学祭(10月4日) ・ロータリークラブゲスト演奏(11月1日) ・定期演奏会(11月14日) ・成人式オープニング演奏(1月10日) ・入団式、春のコンサート(2月20日) ・ライツ室内管弦楽団特別演奏会(3月13日)			

2.事業費等(単位:円)

節区分	平成27決算(円)	説明等	前年度決算(円)
8.報償費	603,000	指導員謝礼19人	499,500
11.需用費	423,181	弦楽器、管楽器修繕料	249,825
13.委託料	2,160,000	演奏指導委託料(ライツ室内管弦楽団)	2,160,000
18.備品購入費	494,100	バイオリン、バイオリンケース購入費	250,000
合計	3,680,281		3,159,325
財源内訳	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
	ふるさと創生基金	500,000	500,000
	一般財源	3,180,281	2,659,325
	合計	3,680,281	3,159,325
国庫支出金を除いた比率	100.00%		

3. 事業費等の推移(単位:円(決算))

【1】節区分	【2】説明	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
8.報償費	指導員謝礼	574,300	672,000	499,500	603,000
11.需用費	楽器修繕料	200,000	20,000	249,825	423,181
13.委託料	演奏指導委託料(ライツ室内管弦楽団)	2,160,000	2,160,000	2,160,000	2,160,000
18.備品購入費	楽器購入費	0	0	250,000	494,100
18.負担金補助及び交付金	海外遠征友好演奏会負担金	5,000,000	0	0	0
事業費計		7,934,300	2,852,000	3,159,325	3,680,281
【4】正規職員人件費		2,479,000	2,020,000	1,946,000	1,396,000
【5】臨時職員人件費		2,626,000	2,704,000	3,586,000	3,894,000
【6】総合計		13,039,300	7,576,000	8,691,325	8,970,281
財源内訳	特【7】国庫支出金	0	0	0	0
	定【8】県支出金	0	0	0	0
	財【9】地方債	0	0	0	0
	源【10】その他	200,000	0	500,000	500,000
	【11】一般財源	12,839,300	7,576,000	8,191,325	8,470,281
	【12】合 計	13,039,300	7,576,000	8,691,325	8,970,281
	【13】国庫支出金を除いた比率	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

4. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
団員数	回	87	83	79	86
年間活動日数	日	95	94	95	96
<変化の理由> 児童数が毎年減少しているなか、小学校教諭との連携の下、団員の新規確保及び指導に熱意をもって取り組んだ結果、団員数の増加を図ることができた。					
【2】事業の成果を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
演奏会数	回	6	8	4	8
演奏会入場者数	人	1,865	2,203	1,947	4,293
<変化の理由> 少年少女オーケストラとして、定期演奏会・成人式オープニング演奏・春のコンサートの3つの演奏会を毎年実施している。その他、市制施行10周年記念式典・兵庫県交響学祭・こども園を対象にしたコンサート等の活動を行い、また、集客数の多いジュビターホールで演奏会を6回行ったため、演奏会数と入場者数が前年度に対して大幅に増加した。					

5. 成果単位あたり金額(円)

【1】単位あたり金額	年 度			
	24年度	25年度	26年度	27年度
演奏会数	2,173,217	947,000	2,172,831	1,121,285
<変化の理由及びそれへの対応策> 24年度はオーストリア ウィーン市への海外遠征を行ったため特に高額になっている。その他の年度においては概ね演奏会数に比例して横ばいになっている。今後は市民にとって身近な場所で演奏会を積極的に行うことで、市民へのクラシック音楽の普及と定着を図り、また、市内芸術文化の振興を図る。				

6. 事業環境

[1]市民ニーズ・団体の意見 (アンケートなど)	演奏会のなかで最も重きを置いている。座席数800のジュピターホール大ホールで開催する定期演奏会において、平均96%以上の集客率を確保していることから、市民にとってニーズが非常に高いと考えられる。
[2]近隣市町で提供されているサービス水準との比較	近隣市町に同様の事例がない朝来市の特徴的な事業である
[3]代替サービスの有無	無

7. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
事業実施の緊急性	2		・現状の事業を継続的に実施する。 ・全国的にも特徴的な市独自の青少年育成事業として市内外から高い評価を受けている。今後も演奏の場を増やしていくことで、市内に音楽文化の更なる振興及び醸成を図りたい。
A 事業実施の必要性	2	○ 継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	3	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

A 事業実施意義 B 事業内容手法 C 市民とのコミュニケーション

8. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
事業実施の緊急性	2		◇少年少女オーケストラは積極的な活動を行っており、その演奏会に訪れる市民も多く、市内外からの評価も高い。今後少子化により団員の確保も徐々に難しくなることも考えられますが、今現在は継続実施すべきと考えます。
A 事業実施の必要性	2	○ 継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	3	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

9. 外部評価

評価	評価理由
拡充	
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

10. 最終評価

評価	評価理由
拡充	二次評価のとおりとする。
○ 継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

事務事業名(細目)	社会体育事業(和田山)	担当部課	社会教育課(和田山公民館)
予算コード	10-06-01-007-01		
款:教育費	項:保健体育費	目:保健体育総務費	

1.事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	好きなまちでエコライフ【社会減抑制】	事業開始年度	評価区分	計画
13	生涯学習・生涯スポーツの推進	H 17	事業種別	1.ソフト事業
事業の目的	ソフトボール大会予選会の実施により、ソフトボールを通して市民が心身を健全に保ち、明るく豊かな生活を推進すると共に地域社会の交流を深める。			
事業の実施内容等	朝来市ソフトボール大会和田山地区予選大会を開催し、12チームが参加した。			

2.事業費等(単位:円)

節区分	平成27決算(円)	説明等	前年度決算(円)
8.報償費	13,182	優勝・準優勝チーム用 盾	13,292
11.需用費	16,312	ボール・賞状等消耗品	49,000
合計	29,494		62,292
財源内訳	特定財源	国庫支出金	
		県支出金	
		地方債	
		その他	12,000
	一般財源		17,494
	合計		29,494
国庫支出金を除いた比率	100.00%		

社会体育事業(和田山)

3. 事業費等の推移(単位:円(決算))

【1】節区分	【2】説明	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
8.報償費	優勝・準優勝チーム用 盾	11,316	11,370	13,292	13,182
11.需用費	ボール・賞状等消耗品	13,014	41,450	49,000	16,312
事業費計		24,330	52,820	62,292	29,494
【4】正規職員人件費		265,000	441,000	277,000	301,000
【5】臨時職員人件費		0	54,000	268,000	26,000
【6】総合計		289,330	547,820	607,292	356,494
財源内訳	特 [7]国庫支出金	0	0	0	0
	定 [8]県支出金	0	0	0	0
	財 [9]地方債	0	0	0	0
	源 [10]その他	14,000	12,000	11,000	12,000
	[11]一般財源	275,330	535,820	586,292	344,494
	[12]合計	289,330	547,820	607,292	356,494
[13]国庫支出金を除いた比率		100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

4. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
ソフトボール大会(和田山地区大会)	回	1	1	1	1
<変化の理由> 天候に左右される事業ではあるが、毎年好天の下で滞りなく実施できた。市の大会の予選会という位置づけで実施しており、また各区や和田山地域全体の交流の場となっている。					
【2】事業の成果を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
ソフトボール(和田山地区大会)参加チーム数	チーム	14	12	11	12
<変化の理由> 年度により増減が見受けられるが、ほぼ横ばいである。					

5. 成果単位あたり金額(円)

【1】単位あたり金額	年 度			
	24年度	25年度	26年度	27年度
ソフトボール(和田山地区大会)参加チーム数	20,666	45,652	55,208	29,708
<変化の理由及びそれへの対応策> 大会運営に必要な石炭、教急セット代など消耗品は一定であることから、参加チーム数によって金額が増減することはやむを得ないと考えられる。				

社会体育事業(和田山)

6. 事業環境

[1]市民ニーズ・団体の意見 (アンケートなど)	代表者会を開催し、参加団体の意見を把握している。区民の交流の場となっており継続を希望する。
[2]近隣市町で提供されているサービ水準との比較	和田山はソフトボール大会だけを実施している。ソフトボール大会としては同程度であるが、ほかの社会体育種目を実施しておらず、やや低いといえる。ただし、市民のスポーツ団体は多くあり、種々の大会をそれぞれで開催されており、その活動を支援するという点では水準は同程度といえる。
[3]代替サービスの有無	市内のスポーツ団体による種々の大会が企画され、実施されている。

7. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
事業実施の緊急性	2	拡充	したところ、区など地域内の交流を図る種目として適切である。 市の大会の予選会という位置づけであり今後も継続していくが、市の大会のあり方を検討する必要もある。(各公民館により参加チーム数に差があり、予選会という位置づけに無理が生じてきている。) 参加チームの固定化がみられるようになってきているため、できるだけ多くの和田山地域の住民の交流が図れるようなスポーツ(多くの参加が可能なニュースポーツやグラウンドゴルフなど)の実施の可否や類似大会の有無など検討していくことも必要である。今後情報収集を行う必要もある。
A 事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

8. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
事業実施の緊急性	2	拡充	◇市が主催して和田山地域内で全町的に行っている唯一のスポーツ大会である。参加するチームも少なくなり、また固定化する傾向にあるが、区を越えて交流できる機会である。今後種目の見直しを行っていく必要もあると思われるが、当面の間は継続実施すべきと考える。
A 事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

9. 外部評価

評価	評価理由
拡充	
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

10. 最終評価

評価	評価理由
拡充	二次評価のとおりとする。
○ 継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

事務事業名(細目)	社会体育事業(生野)	担当部課	生野支所地域振興課(生野公民館)
予算コード	10 - 06 - 01 - 006 - 01		
款: 教育費	項: 保健体育費	目: 保健体育総務費	

1. 事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	好きなまちでエコライフ(社会減抑制)	事業開始年度	評価区分	計画
13	生涯学習・生涯スポーツの推進	H 17	事業種別	1.ソフト事業
事業の目的	(1)市民(生野地区)の健康増進を図るとともに、住民との一体的事業により若者から高齢者まで幅広い参加を促し交流を推進する。 (2)各区対抗スポーツ大会をスポーツ推進員、各区体育委員とともに開催し、地域・世代間等の交流と健康増進を図る。			
事業の実施内容等	以下のスポーツ活動を実施する。 (1)生野地区グラウンド・ゴルフ大会 (H27.05.09(土)実施) (2)生野地区ソフトボール大会 (H27.05.24(日)実施) (3)生野地区女子バレーボール大会 (H27.07.05(日)実施) (4)生野地区卓球大会 (H27.11.30(日)実施)			

2. 事業費等(単位:円)

節区分	平成27決算(円)	説明等	前年度決算(円)
8.報償費	21,312	イベント参加謝礼	21,465
11.需用費	54,296	消耗品、食糧費	65,680
12.役務費	4,374	手数料	6,299
合計	79,982		93,444
財源内訳			
特定財源			
国庫支出金			
県支出金			
地方債			
その他	54,000		49,000
一般財源	25,982		44,444
合計	79,982		93,444
国庫支出金を除いた比率	100.00%		

社会体育事業(生野)

3. 事業費等の推移(単位:円(決算))

【1】節区分	【2】説明	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
8.報償費	イベント参加謝礼	203,731	21,465	20,600	21,312
11.需用費	消耗品、食糧費	64,891	65,680	55,960	54,296
12.役務費	手数料	6,299	6,299	6,318	4,374
事業費計		274,921	93,444	82,878	79,982
【4】正担職員人件費		825,000	813,000	853,000	2,978,000
【5】臨時職員人件費		-	-	-	-
【6】総合計		1,099,921	906,444	935,878	3,057,982
財源内訳					
特定財源	【7】国庫支出金			0	0
	【8】県支出金			0	0
	【9】地方債			0	0
	【10】その他			49,000	54,000
	【11】一般財源	1,099,921	906,444	886,878	3,003,982
	【12】合計	1,099,921	906,444	935,878	3,057,982
	【13】国庫支出金を除いた比率	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

4. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
大会開催数	回	4	3	4	4
<変化の理由> H25年度においては5月11日開催予定であったグラウンドゴルフ大会が雨天の為、中止となった。					
【2】事業の成果を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
大会参加 チーム数	チーム	75	68	68	62
<変化の理由> 各大会とも減少傾向にあるがグラウンドゴルフ大会においては増減の変動が大きい。					

5. 成果単位あたり金額(円)

【1】単位あたり金額	年 度			
	24年度	25年度	26年度	27年度
大会参加 チーム数	14,666	13,330	13,763	49,322
<変化の理由及びそれへの対応策> H24年度においては支所長杯トロフィー購入の為若干高額になった。また、H27年度は担当した職員の人件費による影響が大きい。				

社会体育事業(生野)

6. 事業環境

[1]市民ニーズ・団体の意見 (アンケートなど)	事前に各種目の代表者会議を実施し、町民の意見を吸い上げている。町民も各区対抗で積極的に参加いただき、チームの人数が各区で合わない場合は、他地区から補填するなど交流ははかれている。
[2]近隣市町で提供されているサービス水準との比較	市内でも種目数が多くサービスは手厚い。しかし、将来もますます高齢者が多くなることが想定される生野地区では交流事業でもある体育事業は必要である。
[3]代替サービスの有無	グラウンドゴルフ大会については、老人クラブ・自治協・各地区などで実施されている。しかし、将来的なことも見据え、多世代が楽しむことのできるグラウンドゴルフについては、公民館も含めたどの団体も人員不足のなかで、互いに協力しあって実施することが望ましいと考える。

7. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	○ 拡充	◆現状の事業を継続して実施する。 ◇生野地域は高齢化率が高く、健康増進のため・娯楽施設が少ない・交通機関が充実していない・交流の場の減少ということを補填する意義からも社会体育事業を継続していく必要はある。
事業実施の必要性	2	○ 継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	◇しかし、支所職員が減少し、かつ町内店舗(事業所)に従事する町民も減り、地域の次世代を若手で担っていくのが構築しにくい。自治協議会員の意識の醸成も含めて、地域と公民館が協働で事業推進すべきである。
B 事業内容等の適切さ	1	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

A 事業実施意義 B 事業内容手法 C 市民とのコミュニケーション

8. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	○ 拡充	◇地域交流の少ない交流の場である。また、地域(地区)対抗戦で行っているスポーツも多く、応援者も多く集まっている。ただし、実施するスポーツが引き続いており、より多くの方々が参加できるレクリエーションなどに見直しを要する必要があるが、当面の間は継続実施すべきと考える。
事業実施の必要性	2	○ 継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

9. 外部評価

評価	評価理由
○ 拡充	
○ 継続実施	
○ 改善見直し	
○ 抜本的見直し	
○ 休止	
○ 廃止	

10. 最終評価

評価	評価理由
○ 拡充	二次評価のとおりとする。
○ 継続実施	
○ 改善見直し	
○ 抜本的見直し	
○ 休止	
○ 廃止	

事務事業名(細目)	社会体育事業(山東)	担当部署	山東支所地域振興課(山東公民館)
予算コード	10 - 06 - 01 - 008 - 01		
款: 教育費	項: 保健体育費	目: 保健体育総務費	

1.事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	好きなまちでエコライフ(社会減抑制)		事業開始年度	評価区分	計画
	13	生涯学習・生涯スポーツの推進			
事業の目的	市民が気軽にスポーツに参加し、スポーツを通じた交流ができるように各種スポーツ大会、教室を実施する。				
事業の実施内容等	山東地区におけるスポーツ大会の開催 ・ソフトボール大会(朝来市民ソフトボール山東地区予選:5月) ・元旦マラソン大会(1月)				

2.事業費等(単位:円)

節区分		平成27決算(円)	説明等	前年度決算(円)
1.報酬		20,736	報償費	39,966
11.需用費		68,828	消耗品・食糧費	75,257
合計		89,564		115,223
財源内訳	特定財源			
	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
一般財源		5,000		4,000
合計		84,564		111,223
合計		89,564		115,223
国庫支出金を除いた比率		100.00%		

3.事業費等の推移(単位:円(決算))

【1】節区分	【2】説明	年度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
1.報酬	報償費	21,400	50,733	39,966	20,736
11.需用費	消耗品・食糧費	98,575	75,800	75,257	68,828
事業費計		119,975	126,533	115,223	89,564
【4】正規職員人件費		1,059,621	767,832	2,457,998	1,631,930
【5】臨時職員人件費					
【6】総合計		1,179,596	894,365	2,573,221	1,721,494
財源内訳	特 [7]国庫支出金			0	0
	定 [8]県支出金			0	0
	財 [9]地方債			0	0
	源 [10]その他	6,000	7,000	4,000	5,000
	【11】一般財源	1,173,596	887,365	2,569,221	1,716,494
【12】合計		1,179,596	894,365	2,573,221	1,721,494
【13】国庫支出金を除いた比率		100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

4. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	年度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
市民ソフトボール大会(山東地区)開催数	回	1	1	1	1
元旦マラソン開催数	回	1	1	0	1

<変化の理由>
平成26年度は悪天候のため元旦マラソンは中止。

【2】事業の成果を表す数値	単位	年度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
市民ソフトボール大会(山東地区)参加チーム数	人	7	7	5	5
元旦マラソン参加者数	人	160	192	0	156

<変化の理由>
ソフトボール大会の参加チーム数の増減で参加者数が上下する。(24年度:105人、25年度:100人、26年度:72人、27年度:72人)

5. 成果単位あたり金額(円)

【1】単位あたり金額	年度			
	24年度	25年度	26年度	27年度
市民ソフトボール大会(山東地区)参加チーム数	168,514	127,766	514,644	344,299

<変化の理由及びそれへの対応策>
若い世代にとってソフトボールが、徐々に交流のツールではなくなってきている可能性がある(野球経験者が殆ど)。各事業、出来るだけ多くの参加していただけるよう、広報等で周知を図る。
H26年度は担当した職員の人員費が高く、年度により人員費が大きく影響している。

6. 事業環境

[1]市民ニーズ・団体の意見 (アンケートなど)	代表者による抽選会で、意見を聴取。もう少し参加チーム数が増えることを希望する。 地区予選と決勝大会のルールを同じにしてほしい(ホームランラインは決勝でも設置してほしい。)
[2]近隣市町で提供されているサービス水準との比較	同程度
[3]代替サービスの有無	山東地区内では代替サービスは無い。

7. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
事業実施の緊急性	2	拡充	スポーツを通して地区内の住民が親交を深めることや健康増進が目的であり、一定の効果は期待できる。しかし、交流、健康増進の方法については近年多様化し、また、少子高齢化の影響もあって、参加者の減少は今後も続くと考えられる。しばらくの間は継続実施が望ましいが、状況を鑑みて改善見直しを行っていく必要があると考える。
A 事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

A 事業実施意義 B 事業内容手法 C 市民とのコミュニケーション

8. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
事業実施の緊急性	2	拡充	〇区を越えて交流できる機会、また、健康増進を促がす機会である。今後種目の見直しを行っていく必要もあると思われるが、当面の間は継続実施すべきと考える。
A 事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

9. 外部評価

評価	評価理由
拡充	
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

10. 最終評価

評価	評価理由
拡充	一次評価のとおりとする。
〇 継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

事務事業名(細目)	社会体育事業(朝来)	担当部課	朝来支所朝来公民館
予算コード	10 - 06 - 01 - 009 - 01		
※: 教育費	項: 社会教育費	目: 公民館費	

1. 事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	好きなまちでエコライフ(社会減抑制)	事業開始年度	評価区分	計画
13	生涯学習・生涯スポーツの推進	H 17	事業種別	1.ソフト事業
事業の目的	市民(朝来地区)の健康増進を目的としたスポーツ活動の促進			
事業の実施内容等	朝来地域において市民の健康増進・コミュニケーションの場としてスポーツ大会を実施する。 ・朝来地区ソフトボール大会(5月開催) ・朝来バレーボール大会(春季) ・朝来バレーボール大会(秋期)			

2. 事業費等(単位:円)

節区分	平成27決算(円)	説明等	前年度決算(円)
11.需用費	40,454	消耗品費	54,517
12.役務費	7,128	新聞折込手数料	7,484
合計	47,582		62,001
財源内訳	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		
一般財源	21,000	社会体育事業参加料	22,000
一般財源	26,582		40,001
合計	47,582		62,001
国庫支出金を除いた比率	100.00%		

社会体育事業(朝来)

3. 事業費等の推移(単位:円(決算))

【1】節区分	【2】説明	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
11.需用費	消耗品費	59,667	79,231	54,517	40,454
12.役務費	手数料	14,802	7,275	7,484	7,128
事業費計		74,469	86,506	62,001	47,582
【4】正規職員人件費		991,000	837,000	745,000	223,000
【5】臨時職員人件費		263,000	536,000	0	0
【6】総合計		1,328,469	1,459,506	807,001	270,582
財源内訳	特【7】国庫支出金			0	0
	定【8】県支出金			0	0
	財【9】地方債			0	0
	源【10】その他	0	18,000	22,000	21,000
	【11】一般財源	1,328,469	1,441,506	785,001	249,582
	【12】合計	1,328,469	1,459,506	807,001	270,582
【13】国庫支出金を除いた比率		100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

4. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
大会開催数(朝来地区大会)	回	2	3	3	3

<変化の理由>
平成24年度と平成25年度の変化については、バレーボール大会が春と秋の2回開催となったため。

【2】事業の成果を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
大会参加チーム数(朝来地区大会)	チーム	10	17	18	17

<変化の理由>
平成24年度と平成25年度の変化については、バレーボール大会が春と秋の2回開催となったため。

5. 成果単位あたり金額(円)

【1】単位あたり金額	年 度			
	24年度	25年度	26年度	27年度
大会参加チーム数(朝来地区大会)	132,847	85,853	44,833	15,917

<変化の理由及びそれへの対応策>
平成24年度と平成25年度以降の変化については、バレーボール大会が春と秋の2回開催となった事によるものと人件費によるもの。

社会体育事業(朝来)

6. 事業環境

[1]市民ニーズ・団体の意見 (アンケートなど)	大会前に代表者会議を実施
[2]近隣市町で提供されて いるサービス水準との比較	同程度
[3]代替サービスの有無	無

7. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
事業実施の緊急性	2		各大会については、市の全体大会への予選会及び他市町・地域との交流の場としての意味合いもあり、今後も継続。
A 事業実施の必要性	2	○ 継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

A 事業実施意義 B 事業内容手法 C 市民とのコミュニケーション

B. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
事業実施の緊急性	2		◇区を越えて交流できる機会、また、健康増進を促がす機会である。今後種目の見直しを行っていく必要もあると思われるが、当面の間は継続実施すべきと考える。
A 事業実施の必要性	2	○ 継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
サービス対象の広がり	2	抜本的見直し	
B 事業内容等の適切さ	2	休止	
受益者負担の適切さ	2	廃止	
C 市民ニーズの把握	2		

9. 外部評価

評価	評価理由
拡充	
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

10. 最終評価

評価	評価理由
○ 拡充	二次評価のとおりとする。
○ 継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

事務事業名(細目)	図書館運営管理事業	担当部課	教育委員会 社会教育課
予算コード	10 05 - 06 - 100 - 01		
款: 教育費	項: 社会教育費	目: 図書館運営費	

1. 事務事業の目的、事業内容

総合計画体系	好きなまちでエコライフ	事業開始年度	評価区分	計画
13	生涯学習・生涯スポーツの推進	H 17	事業種別	1.ソフト事業
事業の目的	快適で利用しやすい図書館環境を維持するとともに、図書館資料を適切に整備する。知識の提供を中心としたサービスを行う。			
事業の実施内容等	◎資料の収集、貸出、返却、レファレンスサービス、おはなし会、読書案内、各種行事 平成27年度 ○蔵書冊数 208,412冊 ○資料の貸出 178,114冊 ○利用者数 37,719人 ○来館者数 112,690人 ○予約件数 8,220冊 ○レファレンス 1,220件 ○登録者数 18,255人 ○開館日数 290日 ○館内おはなし会 226回 985人 ○館外おはなし会 176回 7,049人 ○行事 和田山図書館開館20周年 人形劇 あさご森の図書館10周年 夜のおはなし会&コンサート ○工作会、イベントおはなし会、読書週間おはなし会 ○ブックリスト発行 5回 ○ブックスタート 225名			

2. 事業費等(単位:円)

節区分	平成27決算(円)	説明等	前年度決算(円)
1.報酬	22,500	図書館協議会委員10名	27,000
8.報償費	2,618,091	講演会講師等謝礼、ボランティアスタッフ謝礼	2,455,204
9.旅費	111,130	職員等出張旅費	40,650
11.需用費	9,599,250	消耗品、印刷、修繕、光熱、水道	7,603,830
12.役員費	3,019,443	電話、郵便、保険料、保守料	3,002,604
13.委託料	1,601,772	清掃、整備、MARC作成	1,622,411
14.使用料及び賃借料	2,842,894	コピー、事務機器、自動車借上、下水道、放送受信料	8,857,505
18.備品購入費	9,746,792	図書、システムサーバ購入費	8,017,712
19.負担金補助及び交付金	69,000	日本図書館協会等負担金	69,000
合計	29,630,872		31,695,916
財源内訳	特定財源	国庫支出金	
		県支出金	
		地方債	
		その他	ふるさと創生基金
一般財源	21,630,872		23,757,916
合計	29,630,872		31,695,916
国庫支出金を除いた比率	100.00%		

3. 事業費等の推移(単位:円(決算))

【1】節区分	【2】説明	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
1.報酬	図書館協議会委員10名	36,000	27,000	27,000	22,500
8.報償費	講演会等講師謝礼、ボランティアスタッフ謝礼	2,546,948	2,630,121	2,455,204	2,618,091
9.旅費	職員等出張旅費	33,110	8,200	40,650	111,130
11.需用費	消耗品、印刷、修繕、光熱、水道	9,089,273	8,018,644	7,603,830	9,599,250
12.役員費	電話、郵便、保険料、保守料	2,920,875	2,893,142	3,002,604	3,019,443
13.委託料	清掃、整備、MARC作成	1,566,628	1,959,260	1,622,411	1,601,772
14.使用料及び賃借料	コピー、事務機器、自動車借上、下水道、NHK	8,866,530	8,947,158	8,857,505	2,842,894
15.工事費	空調機器、照明LED化		32,416,650		
18.備品購入費	図書購入費等	8,100,000	8,032,800	8,017,712	9,746,792
19.負担金補助及び交付金	日本図書館協会等負担金	69,000	69,000	69,000	69,000
事業費計		33,230,364	65,001,975	31,695,916	29,630,872
【4】正規職員人件費		26,411,000	24,076,000	26,153,000	25,113,000
【5】臨時職員人件費		10,187,048	10,436,400	10,441,200	12,982,000
【6】総合計		69,828,412	99,514,375	68,290,116	67,725,872
財源内訳	特 定 財 源			0	0
	【7】国庫支出金			0	0
	【8】県支出金			0	0
	【9】地方債			0	0
【10】その他		8,100,000	12,944,000	7,938,000	8,000,000
【11】一般財源		61,728,412	86,570,375	60,352,116	59,725,872
【12】合計		69,828,412	99,514,375	68,290,116	67,725,872
【13】国庫支出金を除いた比率		100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

4. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
蔵書冊数	冊	193,189	197,827	203,186	208,412
おはなし会開催回数	回	348	353	360	401
<変化の理由> 平成27年度の新規購入は5,123冊、寄贈品の受入が103冊あった。今のところ書庫に余裕はあるが、毎年5,000冊程度増加しており、廃棄についても検討していかなければならない。 館内、外でおはなし会を定期的に行っている。館外は年間の開催回数が決まっているのでほぼ同じだが、館内ではその時間に子どもの来館者がいないと開催しないので変動する。					
【2】事業の成果を表す数値	単位	年 度			
		24年度	25年度	26年度	27年度
貸出冊数(個人・団体)	冊	209,825	195,298	184,953	188,504
おはなし会参加者総数	人	5,922	5,961	8,110	8,034
<変化の理由> 新規登録者数は年に平均420人増加しているが、貸出は約7,000冊ずつ減少続けている。人口減少、若年層の活字離れに促る図書館利用のアピールや読書推進が不十分であることが考えられる。 館内やこども園等で行っているおはなし会の参加人数は増加している。こども園に通園する子どもの数が増えていることが関係していると考えられる。					

5. 成果単位あたり金額(円)

【1】単位あたり金額	年 度			
	24年度	25年度	26年度	27年度
貸出冊数(個人・団体)	333	510	350	359
<変化の理由及びそれへの対応策> 25年度は大きな工事を行ったため事業費が増加し、和田山図書館はほぼ半月休館したので、貸出冊数に影響した。それを除いても、貸出冊数は減少している。新規登録者を含め、継続利用を促すための施策を考えなければならない。 こども園の入園者数が増えているので必然的におはなし会の参加者は増加傾向にあるが、それを次の段階である図書館利用につなげていくことが課題となる。おはなし会は開館当初から続けており、子どもたちに直接本の良さを伝えられる機会なので、継続していかなければならない活動の一つである。				

6. 事業環境

[1]市民ニーズ・団体の意見(アンケートなど)	中高生:「たくさん本があって毎日行きたいです」 一般:「良い本がそろっている」などの意見をいただいた。
[2]近隣市町で提供されているサービス水準との比較	貸出密度(貸出冊数/人口):朝来市6.03 豊岡市5.88 丹波市5.97 実質貸出密度(貸出冊数/登録者数)朝来市10.36 豊岡市21.76 丹波市13.46
[3]代替サービスの有無	なし

7. 一次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	拡充	方針:レファレンスサービス(調査相談)の利用推進。 理由:小説や物語を借りるだけでなく、日常生活や仕事などに活用してもらえる資料の利用を広めたい。個人はもちろん、近年利用が増えている団体貸出や、市民が新しい活動を始め始める際の一助にもなればと考ええる。
事業実施の必要性	3	継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
B サービス対象の広がり	3	抜本的見直し	方法:館内にレファレンスサービスの事例を貼り出すなどして、気軽に相談してもらえらる環境を整える。おはなし会などの多くの子どもに直接触れ合える際に、図書館の利用方法や本を紹介する機会を持つ。また、利用者アンケートを行い、市民ニーズを定期的に把握することに努める。
事業内容等の適切さ	1	休止	
受益者負担の適切さ	3	廃止	
C 市民ニーズの把握	1		

A 事業実施意義 B 事業内容手法 C 市民とのコミュニケーション

8. 二次評価

評価項目	ランク	評価	評価理由
A 事業実施の緊急性	2	拡充	◇ただ図書の貸し出し・返却だけの業務のみをやるのではなく、上記のように利用者にアンケートや意見等を受け取る機会を設けるとともに、蔵書ついて来館者に話しかけたりして、サービスの向上にも繋がるような業務見直しを図るべきと考える。
事業実施の必要性	2	継続実施	
実施主体の妥当性	2	改善見直し	
B サービス対象の広がり	3	抜本的見直し	
事業内容等の適切さ	1	休止	
受益者負担の適切さ	3	廃止	
C 市民ニーズの把握	1		

9. 外部評価

評価	評価理由
拡充	
継続実施	
改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	

10. 最終評価

評価	評価理由
拡充	貸出冊数を増やしていく工夫をすること。
継続実施	
○ 改善見直し	
抜本的見直し	
休止	
廃止	